

(HP 公表用原稿)

全身化学療法不応後の切除不能大腸癌肝転移に対する肝動注化学療法の実態調査

- 研究の対象として予定している、すでに保存されている試料等
手術による切除が不能で、全身化学療法で効果が得られない大腸がん肝転移に対して、平成 20 年 9 月 19 日から平成 27 年 12 月 31 日に国立がん研究センター中央病院において肝動注化学療法の治療を受けられた患者さんが対象となります。
- 研究の概要
肝動注化学療法は、IVR(画像下治療)の技術を用いてリザーバー・カテーテル・システムを体内に埋め込み、抗がん剤を肝臓に直接投与する治療法で、副作用が少なく、肝転移に対しては高い効果が得られることから、以前は、国内では広く行われていました。近年は、全身化学療法の進歩により、実施される機会は減少しましたが、種々の全身化学療法によっても効果が得られない場合には、肝動注化学療法が行われることがあります。そこで、標準的全身化学療法で効果がみられなくなった切除不能大腸癌肝転移に対する肝動注化学療法の実行性や有効性を調査することを目的として、全国の多施設が共同で行う調査研究を計画しました。この研究では、肝動注化学療法を受けられた患者さんの生存期間、肝動注化学療法を実施した期間、腫瘍の縮小程度、有害事象について、診療録(電子カルテ)を用いて調査します。
- すでに国立がん研究センター中央病院に保存してある過去の試料等を同意を取り直さないで研究に用いる理由
本研究では、診療録を調査するため、患者さんの身体に危険、不利益が及ぶ可能性はありません。また、調査内容を研究事務局に提出する際には匿名化を行うので、プライバシーの侵害が生じる可能性もありません。さらに、本研究は、標準的な抗がん剤治療では効果のない大腸がん肝転移の患者さんに対する肝動注化学療法の有用性を評価する、重要かつ必要な研究であると、倫理審査委員会が判断しております。

なお、本研究の対象に該当する方で、診療録等を用いることを許諾されない場合は、下記までご連絡いただくよう、お願い申し上げます。

- ・ 連絡先

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 放射線診断科 荒井保明、曾根美雪

TEL 03-3547-2511 FAX 03-3547-6096